

平成 27 年度国立国会図書館職員採用試験合格者

合格体験記

この合格体験記は、平成 27 年度国立国会図書館職員採用試験合格者(平成 28 年 4 月採用予定者)に、自身の就職活動や今後の目標について書いてもらったものです。今後の当館職員採用試験の受験を検討される方の参考になれば幸いです。

※記載した内容は全て、合格者個人の所感です。試験内容・試験対策等について、当館の公式の見解等を示すものではありません。

<目次> ※年齢は平成 28 年 4 月 1 日時点

1.	26 歳男性 (総合職試験合格者)	1
2.	23 歳男性 (総合職試験合格者)	2
3.	22 歳男性 (一般職試験合格者)	3
4.	22 歳女性 (一般職試験合格者)	4
5.	24 歳女性 (一般職試験合格者)	6
6.	22 歳男性 (一般職試験合格者)	7
7.	22 歳女性 (一般職試験合格者)	8
8.	23 歳男性 (一般職試験合格者)	10
9.	23 歳女性 (一般職試験合格者)	11
10.	24 歳男性 (一般職試験合格者)	12
11.	25 歳女性 (一般職試験合格者)	14
12.	28 歳男性 (一般職試験合格者)	15
13.	27 歳男性 (一般職試験合格者)	16
14.	22 歳女性 (一般職試験合格者)	17
15.	23 歳女性 (一般職試験合格者)	18

※本合格体験記の無断転載を禁止します。

※その他採用試験に関する情報は当館ホームページ「採用情報」をご覧ください。

URL : <http://www.ndl.go.jp/jp/employ/index.html>

<編集・発行>

平成 28 年 1 月 国立国会図書館総務部人事課任用係

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1

TEL : 03-3506-3315 (直通) E-mail : saiyo@ndl.go.jp

1. 26歳男性(総合職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

近世後期から明治初期の江戸・東京を専門に勉強してきました。当初は近世史に置いていた軸足が、卒論執筆時から維新期に移行しました。維新期をやる以上、近世・近代の両時代についての知識が必要となり大変ですが、変化の激しい時代なので研究対象としては面白いと思います。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

一番刺激的だったのは大学院1年時の夏(7月下旬から8月中旬)の米国留学(サマースクール)です。留学の手続き、宿泊施設の確保、授業の課題など大変なことが多かった点は今でもよく覚えています。一方で楽しい思い出もあります。なぜなら、留学の途中から意気投合したクラスメートと一緒に暮らすことができたからです。帰国後も、定期的に連絡を取り合い、年末には日本で再会を果たせました。異国の地でゼロから人間関係を構築することの醍醐味を味わえた貴重な経験でした。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

専攻が日本史学で地方への史料調査へ赴く機会があり、また博物館ボランティアに参加していたので日常的にアーカイブに関わる機会がありました。ですから、国立国会図書館を就職先として早い段階から意識していました。そうした折、著作権、知財法、コンテンツ産業の動向等を扱った授業が大学で開講されることを知り、受講しました。授業では館の取り組みに加えてアーカイブの最前線を知ることができた点が大きな収穫でした。おかげで、国会図書館への就職を強く意識することができました。

4. 就職活動の方針

自分のバックグラウンドや学内外の活動を通して、一番親和性がある分野を攻めようと思いました。情報収集をして楽しさを覚え、自分だったらこういうサービスを展開したいと思える分野が何かあれば、それに向かうべきだと思います。私の場合は、公務員試験の勉強をしていたので他の試験も受験しましたが、一番興味関心があったのは文化に関わる仕事でした。数を打てば当たるという発想もありますが、受験数を絞って密度の高い準備を心がけるのも一つのプランだと思って実践しました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

法学受験だったので、予備校が実施している直前演習を利用して様々なタイプの問題をこなして専門試験に備えました。Aという事案が出題されたら、論点はBといった風にある程度パターン化して知識のアウトプット速度を上げるよう注力しました。同時に、復習では判例集の読み込みも行いました。また、論文対策講座も受講して実際に手を動かして文章を書く練習をしました。英語に関しては、新聞・雑誌からの出題が多く語彙がやや難解ですので、難単語を多く収録した単語帳を利用しました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

3次試験が印象に残りました。個人面接では、入室と同時に大勢の面接官を目にして驚きましたが、新規採用への力の入れ具合が伝わりましたが、和やかな雰囲気だったので、リラックスして自分のやりたいことを熱意をもってお話することができました。集団討論では、討論開始前にグループのメンバーと控室で少し言葉を交わす機会もあり適度に打ち解けた状態で試験に臨めました。長い一日でしたが達

成感はありました。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

館の重要任務である調査業務をはじめ様々な分野に挑戦したいと考えています。敢えて特定の分野を挙げると、新たなオンラインサービスの立ち上げやビッグデータの利活用に関心があります。より利便性・効率性・横断性の高い検索システムを構築して、知的インフラの強化に貢献したいと考えております。また、語学が得意なので、海外の図書館との連携促進にも従事できればと思います。そのためにも、語学研修等のスキルアップの機会を積極的に活用して将来に備えたいです。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

就職試験で大事な点は、当たり前ですが入念な準備です。国立国会図書館を受験する場合は、的確に館の仕事を把握したうえで、自分の考えをまとめておくことが大切です。その最も身近な方法は、図書館へ出向いたり各種オンラインサービスを利用したりすることです。そうした直接的な経験を通して、自分の言葉で志望動機を語るできるようになりますし、図書館の見方も変わると思います。また、ホームページや刊行物を確認して技術的な分野の知識も増やすことをお勧めします。

2. 23歳男性(総合職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

1.2 年生の時は教養学部で、政治、歴史、文学、いろいろ受講してみました。3.4 年生の時は法学部で法律、政治を中心に勉強していました。ゼミでは日本政治、憲法(表現の自由)を研究しました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

好奇心の赴くままに行動してきたので、何かを意識して頑張ったという自覚はあまりありませんが、結果として、たくさんの分野の本を読んできたこと、様々なコミュニティーに飛び込んでいったことの2つがあると思います。とくに後者では、座学以外のこともやってみたいと考え、海外交流サークルに入り、海外の学生たちとお酒の力で様々な話をしたのを覚えています。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

自分自身、読書に限らず書かれたものによって世界が開かれたと感じています。そうした財産を保存、提供していく仕事に携わりたいと考えたからです。

4. 就職活動の方針

自らが行ってきた活動を活かせることを第一に考え、併願先として、法曹の道に進むことを考えていました。また、様々な人、本から勉強してきたことが今の自分を支えていると考えているので、これまでそうして受けてきた恩恵を今度は自分が還元する番だと思い、公益に携わる仕事をしたいと考えました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

専門試験を法学で受験したので、他の科目の方にはあまり参考にはならないかもしれませんが、基本書を通読した後は、書店で山積みになっていた人気の試験対策本を何冊か解きました。最後に過去問を何年分か解きました。気が進まないときは、とにかく問題集を買って手を動かすことを心掛けました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

面接試験の時なのですが、待合室で担当の職員の方と話すことができ、気持ちが一変しました。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

当初は調査業務志望でしたが、それ以外の業務も経験してみたいと考えています。そして、まずは国立国会図書館の全体像を早く把握したいと思います。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

まだ20年とそこらしか生きていませんが、時にはよそ見して休むことも大事だと思います。健康に気をつけて頑張ってください。

3. 22歳男性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

大学のゼミナールでは日本法制史を専攻していました。私は特に江戸時代の宗教統制について調べ、幕府が宗教団体に対する統制を強めつつもその結束力を利用して人民支配を行っていく様子を研究しました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

学生時代はトライアスロンをしていました。基本的に練習はハードなものが多かったのですが、大会等でその成果が記録に表れたときには達成感を感じられました。また自転車のトレーニングでは長距離を走り、様々な場所に出掛けるきっかけにもなりました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

国立国会図書館を知った最初のきっかけはたまたまホームページを見つけたことでした。元々本が好きだったこともあります。仕事内容等を調べていくうちに非常に面白そうな場所だと思い、志望するに至りました。

4. 就職活動の方針

私の場合は併願先も公務員に絞り、民間での就職活動は行いませんでした。併願先として国会職員(衆議院・参議院事務局等)を多く受けました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

私は法学で専門試験を受験しました。対策としては司法試験用の問題集を使用し、論点ごとに要件や学説といった事項を覚えていきました。法学は市販の参考書や問題集が充実しているので、独習者でも取り組みやすい科目ではない

かと思います。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

面接試験について、2次試験に比べて3次試験では面接官の人数が多く、面接室に入った際に圧倒されてしまいました。しかし面接自体は雰囲気も和やかなもので、あまり堅くならず受け答えができたかなと思います。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

資料の国際交換をやってみたい、というのが面接で実際に答えたことです。単純に面白そうな仕事だと思ったことや外国の情報は今後ますます重要になってくるだろうから、というのが理由です。もちろんその他様々な仕事にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

もし国立国会図書館を受験するか迷っている方がいらっしゃいましたら、とりあえず説明会に参加してみると良いと思います。館内で行われる業務説明会であれば実際に職場を見学することができますので、どういった仕事が行われているか具体的なイメージを持つことができるのではないのでしょうか。

4. 22歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

文学部国文学科近代文学ゼミに所属しています。卒業論文のテーマは尾崎翠です。また、司書資格課程を選択しているため、図書館学も勉強しました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

図書館サークルの設立、運営に取り組んだことです。図書館司書になろうと決めた時、今自分ができる図書館改善を実行していくことが良い経験になるのではないかと考えました。自ら図書館の問題点を考え、改善する中で学んだものが多くあったため、大変意義ある活動になったと思います。また、大学図書館職員の方々を始めとする支援者とのやり取りの中で、コミュニケーション能力が向上したことも財産となりました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

大学で司書資格課程を履修し、図書館職員として働くことを決めました。国立国会図書館には、日本で最も規模の大きな図書館であるという点で憧れを抱いていたため、採用試験を受験しました。また、子ども達のための図書館サービスに関心があり、国際子ども図書館が大変魅力的であったことも要因の一つです。

4. 就職活動の方針

図書館職員になることを最優先しました。採用自体が少ない業種であるため、地元以外の採用試験も多く受験しました。国会図書館の他に、地方自治体の司書採用や大学職員を併願しました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

まずは、公務員試験一般教養の過去問を繰り返し解くことをおすすめします。また、私は二次の専門試験を図書館情報学で受験しました。単語とその意味をきちんと復習することと、現代の諸問題の経緯を理解することに力を入れました。日頃からカレントアウェアネス・ポータル等を活用して、図書館周辺のニュースに関心を持つことも大切だと思います。

立たせ、結果的に合格を頂くことができました。国会図書館で為したいことがあるならば、どうか諦めることなく挑戦して頂きたいと思いません。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

国立国会図書館の採用試験は、一次・二次試験の受験者の多さに圧倒されたことが印象的です。他の受験先とは桁違いの規模でした。また、2回面接して頂けたので、自らの考えや経験をきちんと伝えきることができたように思います。その点が他の受験先と異なった点でした。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

働きながら、情報学の分野を更に学んでいきたいです。図書館の利便性向上を目指すならば、情報学の基礎的な理解が必要であると考えたからです。また、図書館職員として、自分自身も学び続ける姿勢を持つことが利用者のニーズの理解にもつながるのではないかと思います。今後も利用者目線を忘れずに、より多くの方が図書館を活用することができる環境作りに努めたいです。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

図書館職員を目指す方々の中には、国会図書館は高嶺の花であると考えの方もいらっしゃるのではないかと思います。私自身、最初は出願することにすらためらいを感じました。しかし、「やってみなければ分からない」と自らを奮い

5. 24歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

19～20世紀の英文学について勉強していました。その際には論文の内容よりも、文学という客観性があいまいになりがちな研究分野において、自分の考えにどう説得力を持たせるか、資料収集やその読み込み・文献表作成はどのように行うかといった、研究態度の養成に重点が置かれていました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

バドミントンサークルの活動です。学内・学外2つのサークルに入っていました。学内のサークルでは、大会出場を目指して皆で練習したり、合宿に行くのがとても楽しかったです。学外のサークル活動の中心は関東地区での大会を運営することでした。こちらでは学内とは少し毛色の違った友人ができたと思います。また、アルバイトは週3～5回程度、家庭教師をしていました。小学生から高校生までの幅広い年代の生徒との授業は、お互いに打ち解けてくると、とてもやりがいがありました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

「本を読むことや研究が好きだけれど、お仕事の中では人と向き合いたい」と思ったときに、国会図書館のお仕事がしっくりきました。人とコミュニケーションを取りながら、自分でも勉強を進めながら、研究の下支えができるということに魅力を感じています。また、立法府所属の公務員になれると、その時々、政治的風潮にあまり流されずにお仕事ができるのかな、とぼんやり感じていました。転勤地が限られているのも理由の一つです。

4. 就職活動の方針

仕事が自分に合っているか、一生続けていけるような仕組みが整っているかどうか。民間も受けましたが、その際にはある程度公的な役割を持っていて、福利厚生もととのっている企業を中心に受けていました(インフラ・海運等)。あとは、説明会や面接に行ってみて、人事の方や志望者の雰囲気・扱われ方にも気を付けていました。機関・会社の性格がよく出るところなのかな、と考えていたので。

5. 当館職員採用試験の試験対策

HP掲載の過去問をよく見て、勉強計画を立てました。文学というマイナーな試験科目を選択したため、参考書として使える本を自分で探すのが少し大変でした。具体的には、本屋さんの各国文学の棚に行き、文学史の本を全て開いてみて、見やすいもの・内容がよくまとまっているものを買うようにし、辞典もしっかりしたものを一冊買いました。教養試験対策は前年8～9月くらいから、専門試験対策は12月くらいから始めました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

5月に一次試験を受けてから8月に結果が出るまで、長い間試験期間が続くのは初めての経験で、その緊張感が印象に残っています。面接ではガチガチになってしまっていて、もうだめだと思っていたのですが無事通ることができたので、話の内容を丁寧に汲み取っていただけたのだろうな、とも感じています。あとは何といても、真夏に最終面接があったので、国会図書館に辿り着くまでが大変でした。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

本や文化に関することなら何でも・・・という気

分ですが、特に子供と関わることや児童文学が大好きなので、上野の国際子ども図書館で働けたらいいなと思っています。語学も好きなので、勉強を続けて留学に行き、そのような方面でのお仕事にも携われたらと思います。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

最初から業界や職種をしぼってしまわずに、色々なところを見て回ると楽しいですし、最終的な選択にも満足しやすくなります。あとは、実際にそこで働いている方に会ってお話を聞くのが、雰囲気や仕事内容を知る上では一番良いと思います！「国会図書館職員」というとお仕事の内容が最初は思い描けなくてとっつきにくい気がするのですが、実は面白そうなことが沢山あるので、少しでも興味を持ったら積極的に調べてみて下さい。

6. 22歳男性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

法学部法律学科で商法のゼミナールに所属していました。過去の事件の検討を通じて、法の適用に関する考え方の変遷を考察しました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

学生時代はテニスサークルに所属し、毎日練習をしていました。テニス経験はなく、何か新しいことに挑戦したいと考えて参加したサークルでしたが、練習をする度に少しずつ自分の出来ることが広がっていく感覚はとても楽しいものでした。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

私は環境づくりを通じて多くの人の活躍を支援したいと考えて公務員を目指しました。その中で、大学で開催された国立国会図書館の業務説明会に参加し、興味を持つようになりました。実際に国立国会図書館を訪れたときに、考えていたよりも多くの方々が利用していて驚いた覚えがあります。その時に感じた静かでありながらも活気のある雰囲気に惹かれて志望したという面もあります。

4. 就職活動の方針

衆・参議院事務局や裁判所事務官、国家一般職などを受験しました。就職活動の中では、将来そこで働く自分がイメージ出来るかどうかということを大切にしていました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

公務員試験対策の予備校に通っていました。個人としては、一日の中で集中して問題を解く時間とリラックスする時間を決めて試験対策を

行っていました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

第2次試験の個別面接で訪れた際に、昼休みに入り休憩に向かう職員の方々を見かけ、職場の雰囲気の良いと感じたことが印象に残っています。就職活動を通して、社会の一員として働くということがどのようなことなのかを考えるようになりました。自分の仕事に責任を持って、しっかり取り組みたいと思います。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

私は調査及び立法考査局での仕事に特に関心があります。それは情報の提供を通じて議員や関係者の方々の活動を支える仕事にやりがい、適性を感じたからです。しかし実際に働き始めれば、まだまだ私では力不足を実感する場面も多いと思います。様々な仕事に挑戦し国立国会図書館の戦力であると言えるようになることが当面の目標です。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

就職活動はその後の人生にも大きな影響を与えるものだと思います。後悔のないように頑張ってください。

7. 22歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

大学では日本古典文学、特に『古事記』をはじめとする上代文学を中心に学んできました。用例を根拠に言葉のひとつひとつについて考えていくのは根気がいるものでしたが、古代の人々の様子や感覚がかい間見えることが興味深かったです。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

大学の附属図書館でインターンシップをしていました。図書の装備や配架などの日常の業務をお手伝いをしたり、ときにはさまざまな自主企画に参加することもありました。大学の附属学校園や留学生にも協力していただき、世界の絵本・児童書の展示会を行ったことが一番の思い出です。子どもたちが夢中になってページをめくっている様子に癒され、大きな達成感を感じました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

本が好きという気持ちで小さなころから図書館で働くことに憧れをもっていました。大学での学びを経て資料の保存・提供という図書館の意義についても考えるようになりました。その中で国立国会図書館は日本の資料の保存に大きな役割を持っており、現在だけでなく過去や未来にもつながる仕事ができると感じました。さらにもともと関心のあった司書業務の他にも、多岐にわたる分野で業務があり奉仕の幅も広いことも魅力的でした。

4. 就職活動の方針

司書職を中心に考えていましたが、一般行政の地方公務員についても業務説明会で惹かれる

点があり併願していました。できれば教育や文化に関わる仕事がしたいと考えていましたが、さまざまな分野にふれて学び続けたいという気持ちもありました。またできるかぎり説明会などには足を運び、職場や職員の方々の雰囲気を感じることも大切にしていたつもりです。

5. 当館職員採用試験の試験対策

一般的な公務員試験対策は予備校に通いました。専門試験は他の司書職の過去問も解きながら、司書講習で使ったプリントや用語集を使って勉強しました。英語は日ごろからもっと触れておくべきだったと少し後悔が残ります。また息抜きもかねて本館や国際子ども図書館の展示会・講演会に参加したり、ホームページを熟読し利用してみたりもしました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

面接のときに、先に終わった他の受験生も「楽しかったです！」と出て来られていたのですが、とても和やかに話を聞いていただけたことが励みになり緊張もほぐれました。就職活動は、私は公務員試験が中心でしたが、思っていた以上に長丁場で緊張することばかりでしたが、こういうときにこそ周りの人からの応援や友達との会話のありがたさに改めて気づかされました。また自分は今後何がしたいのか、何にむいているのかなど自分と向き合う機会が持てたことも本当に良かったです。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

職員の方々は大変勉強熱心な方が多いと聞いていますので、私もどのような分野においても視野を広くもち学び続ける姿勢を忘れずにいきたいです。また、やってみたいこととしては、たくさんの方々、特に子どもたちに読書や図書

館の魅力を知ってもらえるような仕事ができたらと思います。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

どのような志望先でもいわれることだとは思いますが、なぜ国立国会図書館なのか、他の機関や図書館とはどのように違うのか、を考えることが自分の気持ちを確認するためにも志望動機をまとめるにも効果的だったような気がしています。試験は長丁場なので、体調には十分気を遣い力が発揮できますよう、陰ながら応援させていただきます。

8. 23 歳男性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

ロシア語/文学を専攻しており、卒業論文ではロシアのある現代詩人について論じました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

いろいろとありますが、何と言ってもやはりロシアに留学したことです。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

国会図書館に勤務している大学の先輩がおり、その方から話を伺えたことが一番のきっかけになりました。国会図書館を志望した理由としては主に以下の3点です。1, 仕事内容や国会図書館がもつ使命、職場の雰囲気などを総合して考えて自分に合っていそうである点。2, 日本の図書館を代表する機関であることから、対外国業務などにおいて大学で培った知見を活かして仕事ができそうである点。3, 国立機関ならではの大きなスケールの仕事の経験を通じて自分自身が大きく成長できそうである点。

4. 就職活動の方針

民間企業を中心に就職活動を進めていました。ロシア語専攻ではありましたが仕事と好きなこととは分けて考えていたので、ロシアに関連した仕事に就きたいとは必ずしも思いませんでした。そのため企業の雰囲気や仕事の内容を重視し、自分がどんな風に働けるのかを具体的にイメージしながら職を探しました。結果としては出版や教育、翻訳系企業を多く志望することになりました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

先輩職員にOG訪問させていただいた際に、試

験対策についてアドバイスをいただきました。伺ったことを参考に、筆記試験については国会図書館の過去問や公務員試験の過去問・対策本を使って試験対策をしました。面接については、図書館の面接までに民間企業の面接を何度か受けていたので心の準備はできていました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

国会図書館の採用試験に関して特別印象に残っていることはありません。就職活動について、結果論ですが、就職活動をしたことでパーソナルヒストリーに区切りをつけて自分の来し方を振り返るとともに自分の商品価値を客観的に観察する機会ができたので、良かったと思います。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

入館予定者という身分なので具体的に自分がどのような業務に携わるのか、またその中でどのように役に立てるのかはまだ自分でもわかりませんが、ジョブローテーションが制度としてあることも国会図書館で勤務することの大きな魅力の一つだと考えているので、いろいろな仕事を経験して一つ一つの業務の中で自分にできる限りのことをやっていきたいと考えています。その結果、自分の可能性を拓けることができたり、今まで想像もできなかったようなことが経験できるとすればそれは望外の僥倖といったところです。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

自分の立場から言えることはありません。

9. 23歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

農学部に在籍し、農学や生物学について学んでいました。4回生では植物系の研究室に属し、遺伝子技術を用いて花に関する研究を行いました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

学園祭の実行委員を務め、来場者十万人規模の学園祭の開催に尽力しました。広報を担当しており、フリーペーパーやオリジナルグッズのデザインなど、数多くの貴重な経験を得られました。研究室に配属されてからは昼夜を問わず研究に打ち込み、まだ誰も知らないことを探求する大変さと楽しさを実感しました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

大学生活を通して、研究職など理系の分野にこだわるよりも幅広い内容を扱う職に就きたいと思うようになりました。国立国会図書館は採用の幅も広く、理系の知識を活かす機会もありつつ多様なことにチャレンジできると考え志望させていただきました。すべての書籍を収集し、日本の知識や学問を支えていることも意義深いと思います。また、業務説明会で話をしてくださった方が仕事に誇りや理念を持ち、楽しんでおられるのが伝わってきたことも印象的でした。

4. 就職活動の方針

公務員志望だったので他の採用試験も受験し、まだ研究を深めてみたい気持ちもあったので院試も受けました。自分が一生やりがいをもって続けられることかどうかを熟考し、最終的に国立国会図書館に決めさせていただきました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

教養試験対策として市販の問題集を利用しました。専門試験は自分の得意分野が選べるので、これまでに学習してきた知識が活かせる部分が多いと思います。HPに掲載されている過去問にも目を通しました。英語については、日頃論文などを読む機会も多かったのが活かされたかと思います。また、何度か模擬面接を受け、自分の考えを整理しました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

試験を通して、自分がどういう人間か、自分のやりたいことは何か、将来どうなっていたいかなどが自分の中で整理されていくことが印象的でした。しかし実際に試験や面接の場になるとうまくいかず、落ち込むことも多くあります。それでも前向きに、現段階の最善を選んで頑張ろうという気持ちを強く持つことが重要かと感じました。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

レポートにまとめたりすることが好きなので調査業務や、学園祭でも担当していたので広報の仕事に興味があります。しかしどの仕事もそれぞれに興味深いので、まずはいろいろなことを体験して職員としての経験を積みたいです。将来的には、自分の仕事に関する理念や楽しさをきちんと持っているような人間になりたいと思います。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

受験前は過去の倍率を見て暗い気持ちになっていたのですが、まずは受験してみないことには何も始まりません。採用試験を通して自分が考えさせられることも多く、必ず得難い経験に

なると思います。皆さんの挑戦がうまくいくよう応援しています。

10. 24歳男性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について、前職について

学生時代は文学部で西洋史を専攻し、13世紀のフランス国王ルイ9世について研究していました。大学卒業後は民間のセキュリティ企業に就職し、現場に急行する警備隊員として勤務していました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

学生時代は塾講師のアルバイトをしていて、夏休みや冬休みは毎日のように中高生の授業をしていました。また、学生時代で一番思い出に残っているのは、卒業旅行で一週間ロサンゼルスに行ったことです。私にとって初めての海外旅行だったのですが、何とか拙い英語で乗り切りながら、ハリウッドやディズニーランドを満喫することができました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

公務員試験を受験するに当たって様々な機関を調べている中で、HPでたまたま採用試験の存在を知ったのがきっかけです。業務内容をさらに調べていくと図書館としての業務だけでなく、史料、文化財の収集や保存などの業務も行っていることを知りました。過去の史料を保存して未来に残していくことは歴史を学んできた自分にとって非常に魅力的に感じ、志望するようになりました。

4. 就職活動の方針

私は公務員として働きたいという気持ちが強くなって前職を退職しました。そのため、併願先も国家一般職や特別区、地方上級など公務員のみでした。どこを受験する際も「社会や地域

全体の役に立ちたい」という思いは共通していましたが、自治体などの場合どうしても業務内容は似通っている部分も出てきてしまいました。そこで、私は教育や子育てなどの分野にも関心があったので、その分野の政策が充実していたり、方針に共感できるところを中心に受験していました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

一次試験は基本的に他の地方上級などの試験と同様に、過去問を繰り返して勉強していました。文系のため理数科目は苦手だったので、それらの科目は参考書を使って公式を一から勉強しなおしました。二次試験では史学(西洋史)を選択したので、高校の教科書や用語集で復習しました。選択式で一问あたりの記述量もそれほど多くないですが、他の公務員試験には無い試験だと思うので、併願している場合、それぞれの勉強にかかる時間配分を考える必要があると思います。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

公務員試験の受験を通して感じたことは、受験者も職員の方々も穏やかそうな人がとても多いということです。それは国会図書館も同様で、職員の方々の雰囲気や口調のおかげで、面接でも焦ったり追い詰められるように感じることなく落ち着いて臨むことができました。自分自身も割と穏やかな性格なので、一緒に働くという点でも安心感を持ってました。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

国会図書館の業務のうち、携わってみたいと考えているものがふたつあります。ひとつは、国会図書館を志望するきっかけになった史料の収集、保存です。過去や現在のものをしっかり

と未来に残すことは、とても大きなやりがいを感じられると思います。ふたつ目は国際子ども図書館での業務です。上記のように、私は教育や子どもに関することにも関心があるので、子ども達にここでしか味わえないような本や場を提供することで、様々な学びの手助けができればと思います。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

国会図書館は日本で唯一の国立図書館として、本や史料、国会運営に関わる様々な業務を行っています。私はこれらの業務について話を聞いたり調べたりする中で、国会図書館での仕事は過去、現在、未来のすべてに貢献できる大きな意義のあるものだと感じました。そして、その一員となれることを誇らしく感じています。本が好きの方はもちろん、私のように歴史や子どもに関心のある方も活躍できる場が、きっとあると思います。少しでも興味のある方は、ぜひ受験していただきたいと思います。

11. 25 歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

学生時代の専攻は美術史で、19 世紀末のロシアの画家イリヤ・レーピンの絵について論文を書きました。レーピンがロシアの民話を初めて絵画にした際に、パリの美術の動向を取り入れていたということを明らかにしました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

ロシアのことを研究するのに日本に閉じこもってはいけないと思い、現地調査を行いました。現地に知り合いのいない状況で、レーピンの資料を所蔵しているような美術館や博物館に調査協力を求める問い合わせをした時は何度も断られ、めげそうになりました。しかし、滅多にない調査の機会だからできることは全部やろうと思い、外国人研究者ならではの強みを生かして日本でのロシア美術研究の概要をまとめた資料を作り、その提供を持ちかけることで協力を得ることができました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

ロシアでは 20 世紀初頭に革命が起こり、革命前の帝政ロシアについて知ろうとすると、革命や第 2 次世界大戦で資料が失われていて分からないということがよくあります。それは書簡だけでなく雑誌や新聞についても言えることで、大事なことが書いてあるはずなのに資料が失われていて真相が分からないのは後の時代の人間にとって痛手となります。研究の中で全ての資料を将来の世代に伝えていく営みの大切さを実感したため、自分もその一助になりたいという思いから職員を志望しました。

4. 就職活動の方針

今すぐ利益を生まなくても長い目で見た時に大事になるかもしれないものがあり、私はそのようなものを切り捨てたくないという思いが強かったので、長期的な視野を持っていそうで学術・文化の発展に貢献できそうな組織を志望しました。民間か公務員かという区別はあまり意識せず、民間でも伝統芸能の興行をする企業には応募しました。最終的に第一志望の決め手となったのは、組織の理念に共感できるかということと、業務説明会で見学させていただいた職場の雰囲気でした。

5. 当館職員採用試験の試験対策

試験対策は独学でした。教養試験は市販の公務員試験の参考書や問題集を買い、少数の教材を何度も解き直して理解を深めていきました。小さいメモ帳を買い、よく間違える問題とその考え方を書いて隙間時間に読み、解き方を覚えていきました。専門試験は国立国会図書館のホームページに掲載されている過去問をプリントアウトし、関連する本を読みながら自分なりの答案を作る練習をしました。面接試験はとにかく緊張しないように心がけましたが、やはり当日はかなり緊張してしまいました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

最終合格を頂くまでの期間が長かったので、合格を期待してもいいものか、気持ちを他の併願先に切り替えるべきかで悩む時間があり、自分の気持ちを整理して優先順位を設定する難しさを感じました。今年の就職活動は時期が遅かったため、修士論文執筆と並行して進める期間が長かったのですが、同時に複数の業務を進める練習になると思い、前向きに取り組むことで負担感を減らしました。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

今まで研究に力を入れてきたこともあり、可能であればレファレンスや調査依頼への対応、あるいは語学を生かして海外の法律の翻訳に取り組みたいと思っています。しかし、以前職員の方と話した際に、部署を異動して様々な業務を経験することで見えてくるものがあると伺ったため、学生生活で力を入れてきたこととの関連性に拘らず色々なことに挑戦したいという思いもあります。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

国立国会図書館の業務内容や試験についての情報は、公務員の他の種別と比べて知る機会が少ないので、業務説明会は貴重な機会になります。多くの職員と話し、多岐にわたる業務を少しでも知った上で、国立国会図書館で働くことに興味を持っていただければ、これから職員になる者として大変嬉しく思います。

12. 28歳男性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

法科大学院（いわゆるロースクール）で、法律全般について。自習室にこもって基本書を読みつつ、過去問解きつつ、議論しつつという生活でした。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

頑張ったことは、やはり大学院時代の勉強だと思います。どれだけの量の字を書いたか読んだかわかりません。学部時代から続けている塾講師のバイトも頑張ったことあげることができます。生徒にあった授業することで、試験の点数が伸びるという客観的な達成感を得るので、成績が伸びた時のやりがいがありました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

国会図書館を詳しく知った経緯は、大学院の教授が退官して国会図書館で勤務し始めたということです。もともと、法律に関する職につくことを希望しており、教授の移籍により、調査業務の存在を知りました。調査業務において、国会議員の立法活動を補佐するという仕事に惹かれました。立法活動を補佐することで、より良い法律案の作成に寄与でき、より良い世の中になることへ貢献できるのではないかと考え、志望するに至りました。

4. 就職活動の方針

併願先としては、衆議院法制局、司法試験と地方上級でした。法律を扱う可能性が高いものを考慮して併願先を選択しています。

5. 当館職員採用試験の試験対策

筆記試験対策としては、数的処理が苦手なので、

数的処理の問題集を一周した程度です。司法試験対策をしているロースクール生であれば、二次の筆記は余裕で書けるはずですが(対象範囲が狭くてすみません)。面接対策は、国会図書館のことがよくわかっていなかったのが、HPを端から端まで読み込みました。あとは、一般的な公務員面接対策で足りると思います。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

面接までたどり着くとわかります。公務員試験の面接は、無味乾燥な定型的な感じですが、国会図書館における面接はそんなことはありません。私はアットホームな感じを受けました。入り口の警備員の方までもそうでした。それゆえ、それほど緊張することなく、素の自分を出せたのではないかと思います。また、素の自分を出して面接に挑んだことが最終合格に至った要因なのではないか、と感じています。ネコをかぶってもバレますし。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

職員としてやってみたいことは、やはり調査業務です。自らが調査した事項を元に法律が制定されることとなれば、達成感が湧くと思われるからです。今後の目標としては、国会図書館職員としての名に恥じぬよう見識を深めてどんな仕事でも対応できるようになることです。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

本が好きなお方にとっては、本に囲まれて仕事できるということは素晴らしいことではないでしょうか。また、試験対策的な意味で、英語はかなり勉強しておいたほうがいいです。面接で英語のレベルについて追及されました。

13. 27歳男性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

大学、大学院と法律を専攻していました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

勉学の内容としては法律を重点的に、興味があった経済学等もあわせて行っていました。学外活動としてはボランティア活動を多々行っていました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

元々本が好きで、絶版本を読むために利用者として訪れており、本に囲まれた職場というものに魅力を感じたこと、並びに、国会議員の方々のサポート等をするにあたって、自分の専攻であった法律の知識を活かせるものと感じたからです。

4. 就職活動の方針

人を助けたいという意識が強かったことから、より多くの人の助けとなれる企業等を受けておりました。具体的にはインフラ系やコンサルティング会社です。

5. 当館職員採用試験の試験対策

私は英語に苦手意識があったので、まずTOEIC700点台後半を目標に英語の勉強をしていました。また教養試験対策は、大学入試程度の一般知識の見直しと、時事問題を中心としたテキストの読み込みを行い、本番では時間切れにならないよう、やや急ぎめに問題を解きました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

誘導をしてくださった職員の方が優しく話しかけてくださり、緊張が少しほぐれたのを覚えています。面接は面接官が複数人いるため、慣れるまで見る場所に困りましたが、どの面接官の方も真剣に耳を傾けてくださり、ありがたく思いました。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

まずは自分の強みとなる部分を仕事の中でいち早く見つけ、その分野では必要とされるといふ人物になりたいと考えています。しかし他方で、多様な業務分野に触れ合えることもうれしく、なるべく様々な経験を積んでいけたらとも感じております。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

教養試験は公務員試験の中でも特に出題範囲が幅広く、対策を立てにくいことと思います。しかし、日ごろから幅広い分野に興味を持つことでカバーできる部分もあると思いますので、なるべくいろいろなものに興味を持って生活するのが近道となるかもしれません。また、面接については皆さん優しい方ばかりですが、慣れという部分も多くあると思いますので、学校や企業の模擬面接等を利用してみるのも良いと思います。

14. 22歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

建築や文学などにおける、異文化の接触と変容について学んでいます。卒業論文では、長崎の独特な和洋折衷の教会群について扱っています。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

大学では速記サークルに所属していました。何か新しいことに挑戦したいと思い、大学に入ってから速記を始めました。競技人口は少ないながら、年に二度全国大会があり、大会のための練習や大会の運営に力を入れていました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

幅広く人に奉仕できることから公務員を目指し、予備校の先生に勧められたことがきっかけで、国立国会図書館のことを知りました。書店でアルバイトをしていたこともあって、知識・文化の集積ともいえる場所で働くことに関心を持ったのが理由です。

4. 就職活動の方針

国家公務員一般職や地元の地方公務員など、公務員のみを併願しました。また、仕事内容が文化の保全や活用に関わることができるものかどうかを基準にしていました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

一つの問題集を5、6回くり返し解きました。特に専門科目では、記述対策のために重要なポイントや出題されやすいポイントをまとめたノートを作り、暗記できるよう、すきま時間を利用して頻繁に見返しました。問題演習をしつつ、まとめノートの関連箇所を思い返すように

して、体系的に記憶することを心がけていました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

面接室の前で控えているとき、職員の方が優しく声をかけてくださったことが印象に残っています。緊張がほぐれ、普段の自分を意識して面接に臨むことができました。就職活動全体を通して、自分がそれまで行ってきたことに意味を見出し、現在の自分という人間ができるまでを見つめ直す良い機会になったのではないかと思います。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

資料の保存業務に興味があります。百年後の人にも読み継がれるように、未来につながるような仕事がしたいと思っています。まずは、任されたことには真摯に向き合い、着実に周囲の環境から学びつつ成長していきたいです。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

就職は今後の人生を決める大きな要素ですし、就職活動は多くの機関や企業で働く人を見られる貴重な機会なので、積極的にいろいろなところへ足を運んでみるのもいいかと思います。目標を定めたら、あとは日々の積み重ねが一番自分の力になってくれるはずですよ。

15. 23歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

私は大学で国語学国文学を専攻しており、主に江戸時代の文学について研究を進めています。卒業論文の題材として取り上げたのは江戸時代の読本『南総里見八犬伝』です。作中に見られる日本神話の影響とその意義について調べています。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

部活動です。私は大学でフィギュアスケート部に属し、2年生から3年生にかけての1年間、副将を務めさせて頂きました。技術的にも精神的にも部の中心でなければならぬと感じながら、なかなか思うようにいかず、悩むことも多くありました。自分が優れた副将であったかは分かりませんが、任期を終えるときには本当に色々な部員から感謝の言葉を頂くことができたので、努力を続けてよかったと思っています。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

直接の契機となったのは、大学で行われた国立国会図書館の業務説明会に参加したことでした。自分自身学ぶことが好きであり、説明会以前より生涯学習教育に携わる職に従事したいと考えていたので、「日本の知を支える」という業務内容は非常に魅力的に感じられました。また、説明会を担当されていた職員の方と自分との間に志望時期・理由などの点で共通するものがあったことで、実際に受験に踏み切ることができたのではないかと思います。

4. 就職活動の方針

私は民間企業への就職は全く考えておらず、公

務員試験のみに集中して就職活動を行いました。公務員試験においても、第一希望に掲げた国立国会図書館職員の採用試験の試験日程や科目を軸として、併願先を決めました。重視した価値観、というほどでもないのかもしれませんが、やはり根底には「生涯教育に携わりたい」という気持ちがあったためか、教育関連の仕事を含む公務員試験を多く受けたように思います。

5. 当館職員採用試験の試験対策

1次試験の対策としては、ひたすらに過去問を解く、ということをやっていました。国立国会図書館職員採用試験の過去問は公表されていないので、地方上級試験などのものを解いていました。2次試験は専門科目の勉強ばかりに傾倒してしまったので、もう少し英語の勉強をして臨むべきだったと後悔しています。専門科目は日本史を選択しました。語句説明の問題があったので、高校時代の教科書などを参考に、予め自分なりに重要語句のまとめを作ってから試験に臨みました。あまり小手先のテクニックを使いたくなかったので、小論文対策や面接対策などはほとんどしていません。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

私は3次試験まで総合職での合格を頂いていたのでグループディスカッションも経験したのですが、その際に同じグループの方数人と様々なお話をできたことが印象に残っています。私は民間企業への就職活動を経験せず、またそれまでに受けていた他の公務員試験でも個別面接が主だったので、他の受験生の方とお話しすることができたのは当館採用試験が初めてでした。大好きな部活動の時間が限られることは辛く感じていましたが、前述のような他の受験生の方との歓談もあり、勉強好き、話好

きという性格も幸いしたのか、全体的に楽しんで就職活動を終えることができたのではないかと思います。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

国立国会図書館所蔵の貴重資料などを、一般の方が手軽に利用できるようにするお手伝いをできたらと思っています。また、自分自身が受験する中で、人事の方に非常にお世話になったこともあって、人事の仕事にも興味を持っています。まだ漠然としか考えられていないので恐縮ですが、どういった仕事を任せて頂くにせよ、一生勉強の気概でもって与えられた仕事に励みたいと思います。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

私が本格的に国立国会図書館職員を目指すようになったのは、1次試験まで3か月もないほどの時期で、志望時期としてはかなり遅い部類に入ります。もう少し早くから勉強を始めればよかった、という後悔や焦りは常に感じておりましたが、その中でも諦めずに最後まで目標を貫き通したことで、合格を頂けたのではないかと思います。今から勉強しても間に合わない、倍率が高くて自分なんて無理なのではないか、と考える受験を躊躇している方がいるならば、ぜひ自信を持って、受験に踏み切って頂けたらと思います。